

田代よいとこーその14ー 水道みちってどんな道？

愛川町内を水道みちという道路が入っているのをご存知でしょうか。世間にはいろいろな道がありますが、これはまた奇妙な名前ですね。水道みちとはつまり地面の下を水道管が通っている道のこと。日本各地にいろいろな水道みちがありますが、ここでは私たちになじみの深い横須賀水道の水道みちについてご紹介します。

水道みちの表記も様々ですが、田代小に一番近いところにある石柱（写真1：旧農協田代支所向かい）の表記「水道みち」に統一します。

この石柱の説明を読むと、こう書かれています。「旧海軍の横須賀水道の敷設地上にある道路。横須賀にまで至る水道管が敷設されています」。

ということは、この道路の下には横須賀まで水を送る水道管が埋められているということです。ではなぜ横須賀なのか？なぜ旧海軍なのか・・・？その歴史を辿ってみました。

横須賀水道は、明治45年（1912年、今から103年前）に、日露戦争（明治37年～38年）後の軍備増強の結果、従来横須賀に水を供給していた走水（はしりみず）からの水道（走水水道：明治9年完成）ではまにあわなくなったために、当時の海軍によって、着手され、大正7年（1918年）10月に完成、通水したものです。つまり戦争と関連が深い水道というわけです。金額は当時の金額にして総額384万円でした。現在の金額にすると、なんと約1兆4500万円です。

取水口を半原・石小屋地区（愛川大橋の上流）に設け、半原浄水場（写真2）を経て中津川沿いを通り、内陸工業団地の近くを經由して厚木市に入り、国道129号、国道246号をほぼ一直線に横切り、向きを変えて相模川を渡ります。その後は、海老名、藤沢、鎌倉、逗子を通り、横須賀市の逸見（へみ）浄水場へ至る約53kmの道路で、落差約70mの自然流下によって送水していました。

では、現在どうなっているのでしょうか。実はこの半原からの取水は、事情により平成19年（2007年）より停止しています。ですから今石柱が立っている下は、もう8年も水が流れていないというわけです。なんだか淋しい気がします。

淋しいといえば馬渡橋（写真3）。この橋も現在新しい橋に付け替えられようとしています。大正3年（1914年）に、横須賀水道の送水管をつけるために建造された物です。時の流れを感じさせられますね。

機会があったら、半原から横須賀まで水道みちを辿るのもおもしろいのではないのでしょうか。

※田代と海軍の関係というのも興味深いテーマです。昨年の学校だより6月号で紹介した「有馬良橋」さん（本校の二宮金次郎像の台座の文字「勤勉努力」を揮毫した人物）は日露戦争当時の海軍軍人でした。また、中津神社の祭礼時に立つ幟に「伊東祐亨」というやはり海軍軍人（日清戦争時の海軍提督）の名前がありますが、なぜなのでしょう。ご存知の方がいらっしゃったらぜひ教えてください。



写真1



写真2



写真3

【参考資料】

- インターネットサイト「wikipedia」
- 『愛川町郷土誌』（愛川町 昭和57年）

【取材協力】山口研一氏（愛川町郷土資料館）